

## 海外派遣プログラム

タイ チェンマイ大学 Suandok hospital

医学科平成 21 年度入学 大河原悠介 (派遣期間 H26.6.9~7.4)

チェンマイ大学への派遣プログラムは今年からということで前情報が何もなく、またクーデター発生後の戒厳令発令中であり、不安なことだらけの中での出発であった。チェンマイ空港に到着すると、留学生担当の学生が迎えに来てくれた。空港から大学までは車で 10 分ほどの距離であった。

チェンマイは中心部は堀 (彼らは canal と言っていたが) で囲まれており、街中でも寺院が点在していた。戒厳令発令中であったが、人々の暮らしに特に変わった点はなく、あるとすればところどころ軍隊が警戒していたぐらいであった。

寮はとにかく古かった (おそらく築 40~50 年)。エアコンはもちろんなく、網戸は一部破れちゃんとしたカーテンもなかった。雨季であったが、夜間の短時間にざっと降ることが多く、日本と違ってじめっとしておらず扇風機で十分過ごすことができた。冷蔵庫は共同のものが廊下にあった。トイレ、シャワーも共用だった。

実習は最初の 2 週間は総合内科の循環器病棟を回ったが、ここの看護師さんには大変お世話になった。夕方以降や休日にも食事に連れて行ってもらったり、空港まで送ってもらった。感謝してもしきれない。実習は朝のカンファ、病棟回診、外来見学 (皮膚科、神経内科) などを行った。学生はとても熱心で、動脈採血やルンバールまで行っていた。

次の週は消化器外科だったが、この週に日本から久野先生たちが視察にいらっしやったため、院内見学や学部長たちとの食事などイレギュラーな実習となった。

最後の週は外傷外科を回った。朝の ICU 回診から始まり、カンファ、夕回診のあとに ER を見学した。ここでは日本ではなかなか経験できないであろう銃創を経験できた。

チェンマイ大学での実習は、希望すれば手技も経験させてもらえた。日本で実習していたのでは経験できないこともあり、とてもためになる実習であった。

週末はバンコクとプーケットにも旅行でき、公私ともに非常に充実した実習生活となった。